

## 少人数指導の充実に係る実践研究

広島市教育センター主任指導主事	井坂雅浩
指導主事	藤村和彦
指導主事	大下恵子
指導主事	水ノ上俊一
指導主事	正原直行

本教育センターでは、平成 13 年度から「少人数指導の導入に係る実践研究」を進め、「少人数指導」における人的・空間的・時間的環境を利用したよさを明らかにすることができた。

こうした中で、本研究においては、「少人数指導」の定義を、子どもそれぞれの能力・適性や興味・関心等を踏まえた学習集団編成による「個に応じた指導」と定義し、学習における子どもの実態、すなわち、子どもの「学習の状況」ならびに「学習への志向性」を把握をするための調査の視点を明らかにした。次に、その実態に基づいた指導計画を作成し、それを具体化した授業における子どもの学習に対する意識を意識調査から読みとることを通して、基礎・基本の定着を図る少人数指導の一層の充実を図るための学習集団の編成及び指導方法の工夫改善の方向性を指導案のモデルで示した。

研究のキーワード 習熟度別少人数指導・学びの志向性・学習集団の編成

# 目 次

	頁
問題の所在 .....	1
研究の目的 .....	1
研究の方法 .....	1
研究の内容 .....	2
1 「少人数指導」の定義 .....	2
(1) 個に応じた指導 .....	2
(2) 「少人数指導」の充実を図るため視点 .....	3
(3) 学習における子どもの実態に応じた指導 .....	6
2 子どもの意識調査の作成，実施，及び結果の分析・考察 .....	6
(1) 調査の目的 .....	6
(2) 調査の対象 .....	6
(3) 調査時期 .....	6
(4) 設問構成及び意識調査 .....	6
(5) 調査の分析・考察 .....	9
3 学習集団の編成及び学習指導計画案の作成 .....	19
(1) 少人数学習コース希望調査 .....	19
(2) コース希望調査結果 .....	20
4 学習指導案及び自己評価表の作成 .....	21
(1) 学習指導案の作成 .....	21
(2) 自己評価表の作成 .....	25
5 授業実践における生徒の意識 .....	25
6 学習指導改善の視点 .....	30
研究のまとめ .....	38

## 問題の所在

「個に応じた指導」とは、学習集団を編成し、授業実践の中で、「少人数授業のよさ」を十分に活かすことにより実現できるものである。現在、各学校においてその実現に向けて、少人数による授業実践が熱心に行われている。そうした中で、「個に応じる」という観点に立って見たとき、課題として次のようなケースが見られる。

1 学級2展開といった少人数の学習集団（コース）は編成しているものの、指導計画は同じというケース

習熟度別少人数指導においては、習熟の程度によって学習内容や学習方法が決まってしまうケース

少人数指導は、「個に応じた」「きめ細かな指導」のための「方策」であって、少人数の児童生徒を相手に授業することが「目的」ではない。つまり、児童生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、いかに「基礎学力の向上」を図るかが課題である。

少人数による「個に応じた指導」を推進するためには、学習集団の編成及び指導計画の作成に当たり、学習における子どもの実態を十分に踏まえた指導内容や指導方法・指導体制等を設定する必要がある。

そこで、本研究では、習熟度別少人数指導において、学習における子どもの実態を踏まえた学習集団編成の方法及び、それぞれの学習集団に応じた指導内容や指導方法の工夫の仕方について実践を通して探っていく。

## 研究の目的

学習における子どもの実態を把握し、それに基づいた指導計画を作成し実践することが、本来の「個に応じた指導」形態の一つとしての少人数指導の実現につながるものと考えられる。

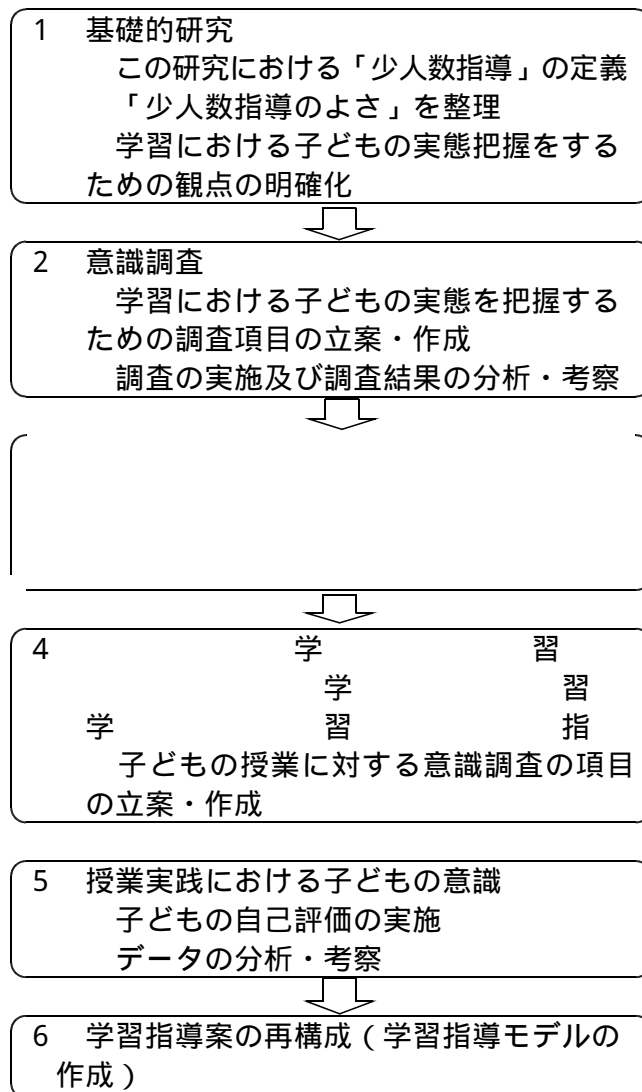
そこで、習熟度別少人数指導において、子どもへの意識調査を実施することにより、学習におけ

る子どもの実態を把握し、それに基づいた指導計画及び授業における子どもの学習の様子を授業観察や意識調査等から読みとることを通して、基礎

- ・基本の定着を図る「少人数指導」の一層の充実を図るための学習集団の編成及び指導方法の工夫
- ・改善の方向性を探っていきたい。

## 研究の方法

基礎的研究，意識調査の作成・実施・分析，学習集団編成，授業実践後の意識調査の実施・分析を行い，その結果に基づく指導計画モデル（案）を作成することにより，少人数指導における指導方法の工夫への方向性を示す。



## 研究の内容

### 1 「少人数指導」の定義

少人数指導は「個に応じた指導」の一形態として実施されているが、先に述べたようにその内容はさまざまである。国立教育政策研究所が平成12年度に行った『児童生徒の学習状況及び学力形成とクラスでの生活意識に及ぼす学級規模の影響に関する調査』には、以下のような、興味深い調査結果が示されている。「～学級人数（学級規模）による学習後の内容の得点が影響されるという立場は、今回の調査からは指示されなかったと言える。前回の教師の指導法の調査において、学級人数により指導法に大きな差が見られなかったことを考えるとこの結果はある意味で一貫した結果となっている～（下線は筆者による）」という一節である。これは、これまでに行われてきた多くの「少人数指導」における次のような課題を指摘しているものであると考えられる。

学習集団の規模は少人数になっているものの、その指導法は、「一斉指導」における指導法と変わっていない！

「少人数指導」における学習集団の名称は実にさまざまである。進度の速さに視点が置かれた名称では、「じっくり型・どどん型」など、内容の難易度の高さに視点が置かれたものや総合的なものでは、「基礎コース・発展コース」などが使われている。いずれも学習集団は少人数で編成されて実践されているようであるが、学習集団の編成の仕方やそれぞれの学習集団における指導方法は多様で、形式的な少人数指導、つまり少人数学習になっているものが少なくない。

そこで、本研究では、「少人数指導」と「少人数学習」を次のように定義し、本研究で定義する「少人数指導」の在り方について探っていく。

「少人数指導」とは

子どもそれぞれの能力・適性や興味・関心等を踏まえた学習集団編成による「個に応じた指導」

「少人数学習」とは

学習集団の規模が少人数になっているものの、その指導法が一斉授業における指導法と変わっていない授業形態

#### (1) 個に応じた指導

##### ア 個に応じた指導とは

子どもはそれぞれ能力・適性、興味・関心等が異なっており、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かすという教育の目標を実現するためには、それぞれの子どもに応じ、次のような適切な指導方法を工夫していく必要があると考えられている。

##### 個に応じた指導方法

従来から取り組まれてきた一斉指導  
個別指導やグループ別指導といった少人数指導

理解の状況に応じた繰り返し指導  
学習内容の理解や習熟の程度に応じた指導  
子どもの興味・関心に応じた課題に取り組む学習 など

文部科学省「個に応じた指導に関する指導資料 - 発展的な学習や補充的な学習の推進 - (小学校算数編)」平成14年8月

個に応じたきめ細かな指導を実現するためには、子どもの実態や指導の場面に応じ、これらの指導方法が、効果的な方法で進められることが望まれることから、「個に応じた指導」は、次のようにとらえることができる。

「個に応じた指導」とは

基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の目標を実現をめざし、単元のねらいや指導内容及び子どもの能力・適性、興味

・関心等に応じて、一斉指導，少人数指導，  
チームティーチングによる指導，繰り返し  
指導，習熟の程度や興味・関心に応じた指導  
などの指導体制及び指導方法等を計画的，系  
統的に編成した学習指導の総体である。

イ 「個に応じた指導」における「一斉指  
導」と「少人数指導」

(ア) 「一斉指導」のよさ

一斉指導とは，学級の子ども全員が，共通の学  
習目標（ねらい），共通の学習内容，共通の教材，  
共通の学習方法，共通の学習時間（学習進度），共  
同の学習場所のもとで一緒に学習する指導形態で，  
次のようなよさがある。

「一斉指導」のよさ

教師が学級全員の子どもに共通の方向付  
けや内容を与えようとするときに有効な指  
導形態

集団思考によってそれぞれの子どもの思  
考を深化・発展させるといった多様な考え  
方や見方に達しようとするときに最も有効  
な指導形態

教師が子ども同士の相互交流を通して子

どもの協調性や帰属意識といった社会性を  
育てようとするときに最も有効な指導形態

(イ) 「一斉指導」の限界と「少人数指導」の  
必要性

上述のようなよさを含む「一斉指導」も，次の  
ような場合にはそのよさを十分に生かすことがで  
きない状況が生じる。

「一斉指導」のよさが十分生かせない状況

習熟の程度や学習速度などの点で学級の  
子どもの個人差が大きい場合

興味・関心や学習スタイルなどの面で学  
級の子どもの個人差が大きい場合

このような状況にあっては，学級の子どもの個  
人差に合わせて指導方法の工夫や改善がますます  
必要となる。

(2) 「少人数指導」の充実を図るための視点  
ア 「少人数授業」のよさ

「少人数授業」においては，人的・空間的・時  
間的環境を利用することにより，次のようなよさ  
を生み出すことができる。

【人的環境】人数が通常規模のおおよそ1/2  
【空間的環境】精神的に感じる空間が広い  
【時間的環境】先生の対応が早い

静かで，先生の声がよく聞こえる  
ゆったりとして，ゆとりを感じる  
呼べば先生がすぐ来てくれる

【子どもにとって】

情緒等が安定する

・静かで落ち着く

など

【学習面や指導面の効果】

## イ 「少人数指導」推進上の課題

アに示したよさは、学習集団の規模がただ単に少人数になることによって生じる人的・空間的・時間的特徴であり、たとえ学級単位で進めている授業の形態や方法をそのまま「少人数指導」として行っている場合においても見られる場合が多い。このことが、少人数指導において学習集団の編成及び指導方法等の工夫が十分になされていない主要な原因であると言える。

本研究でめざす「少人数指導」を実現するためには、「少人数指導」における学習集団をどのように、または何を基準にして編成するのか、そして、編成した学習集団を構成する生徒の実態に応じた指導をどのように展開するのかということをも具体化することであると考えられる。

## ウ 「少人数指導」推進上の課題解決のための工夫

「少人数指導」推進上の課題解決のための工夫として、次のようなことが考えられる。

個人差に応じた指導を展開するための子どもの学習状況等の実態把握

子どもが自分に適したコースを選択できるようにするための手順の工夫  
 子どもの実態を把握  
 子どもの自己評価  
 指導のねらい・学習内容の提示  
 コース希望調査によるコース選択

教師による子どもへの学習カウンセリング  
 子どもによるコース決定

子どもの学び合いを支援する指導方法の工夫

コース内でのグループによる学習活動の場の設定

「少人数指導」と「一斉指導」を組み合わせた指導計画の作成

コース間の交流の場の設定（興味・関心によるコースの場合）

そこで、広島市立 A 小学校において、算数科の授業に上記の工夫を取り入れた少人数指導を実施した。

実施に当たっては、ただ単に、学級単位で進めている授業の形態や方法をそのまま「少人数指導」として行うのではなく、1 学年の学級の枠を取り外し、各学級担任に指導法の工夫改善のための加配教員を加えた 4 名で児童の習熟度や興味・関心等に応じた学習コースを設定し、次の 4 つを研究の視点として、全学年で取り組んだ。

各学年の実態にあった課題設定の工夫  
 算数的活動の積極的な展開  
 コミュニケーション活動を取り入れた集団的思考の深化  
 自己評価活動を通じた数学的な考え方の定着と学習への主体性の育成

## (ア) 4 年生、算数科、単元「少数」における学習コースの事例

コース名	学習の進め方	児童の主な学習活動
じっくりコース	復習をしっかり行い、具体物や半具体物を使いながら、個のペースに併せて学習を進める。	実際に水を入れたコップを活用し、はしたの数の表し方を考える。 児童一人一人のペースに合わせて、ワークシートを解き、少数の表し方に気付く。
しっかりコース	具体物や半具体物の操作をしながら、友だちと考えを交流し、問題を解決していく。	実際に水を入れたコップを活用し、はしたの数の表し方を考える。 少数の表し方について、自力解決したことをグループで交流し、考えを深める。
ぐんぐんコース	自分の力で問題に取り組み、答えに近づいていき、その後一人一人の考えを交流しながら、問題を	ワークシートを活用し、少数の表し方についての課題を解決し、自分なりの考えをホワイトボードにまとめる。 互いに考えを発表し合い、少数の多様な表し方について気付く。

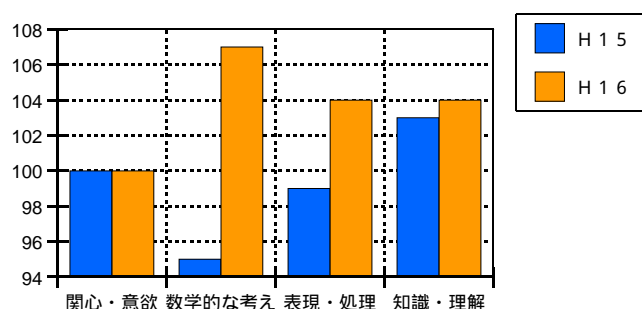
	解決していく。	
どんどんコース	自分の力で問題に取り組み、さらに発展的な内容にも挑戦する。	ワークシートを活用し、少数の表し方についての課題を自力で解決する 小数第2位等、さらに小さい単位についての発展的な課題に挑戦する。

(1) 6年生、算数科、単元「分数のかけ算と割り算」における学習コースの事例

コース名	学習の進め方	児童の主な学習活動
じっくりマスターコース	自分の考えを絵や図、捜査活動で表現し、隣同士のコミュニケーション活動を取り入れたり、思考途中の考えを取り上げ集団で解決する学習を展開する。	絵、図を見て、(分数)÷(小数)になる問題場面を具体的に想起する。 方眼紙などを活用し、自分で課題解決に取り組む。 自分で考えたところまでを友だちと交流し、課題解決を図る。
みんなでトライコース (2コース) (人数均等割)	絵や図、操作活動に加えて、式や言葉での表現活動をしっかりする。 班や友だちとのコミュニケーションを通して自分の考えを友だちの考えと比較し、深化・再構成できるようにする。	を使った問題を提示し、の中に様々な数字を入れながら、多様な問題場面を想定する。 自分で課題解決を図り、考えを画用紙にまとめる。 考え方を友だちと交流し、自分の考えを深め、広げる。
どんどんチャレンジコース	推理タイムを取り入れ、友だちの考えの根拠を推理し説明する。 自分と友だちの考えを比較し、その共通点や相違点、それぞれの考え方のよさや改善点について話し合う。 学んだことを生かして、発展的な問題に取り組む。	条件不足や を使った問題など様々な課題を既習事項を想起しながら、解決する。 解決のための考え方を交流し、友だちの考えについて、その根拠を予想・推理し合う。 発展的な学習に取り組み、理解の拡充・深化を図る。

平成16年5月と12月に実施された児童の意識調査(6年生)を比較すると、「自分から進んでいるいろいろな問題を解いたり練習をしたりしますか」の肯定群が54.8%から75.5%、「算数の授業で、友だちの考えや意見をよく聞いていますか」の肯定群が79.8%から94.1%、「自分の考えを友だちと比べたり、よいところを参考にしたりしていますか」の肯定群が75.9%から88.3%に上昇するなど、自分の習熟度や学びのスタイルにあったコースを選び、同じ志向性を持つ友だちと、誤答や思考途中の考えを話し合って正答に近づけていくコミュニケーション活動を通して、主体的にとともに高めあっていこうとする態度を育成することができたことがうかがえる。

また、児童の学力面では、12月実施のCRTの観点別結果を平成15年度を比較すると、「関心・意欲」に変化は見られないものの、「数学的な考え方」や「表現・処理」が全国平均を上回り、特に「数学的な考え方」が12ポイントも上昇したことから、研究の4つの視点の目標を達成できたと考えられる。



以上，A小学校の実践から，「個人差に応じた指導を展開するための子どもの学習状況等の実態把握」，「子どもが自分に適したコースを選択できるようにするための手順の工夫」，「子どもの学び合いを支援する指導方法の工夫」が少人数指導の充実を図るための重要な要件となることが明らかになった。

これらのことを踏まえながら，本研究で明らかにしたい習熟度別少人数指導における，子どもの実態を踏まえた学習集団編成の方法及び，それぞれの学習集団に応じた指導内容や指導方法の工夫の仕方について，広島市立 B 中学校において実践研究を行った。

### (3) 学習における子どもの実態に応じた指導 ア 学習における子どもの実態に応じた指導とは

子どもはそれぞれ能力・適性，興味・関心等が異なることから，学習における子どもの実態に応じた指導を次のようにとらえることとする。

「学習における子どもの実態に応じた指導」とは  
子どもの「学習の状況」に応じた指導  
子どもの「学習への志向性」に応える指導

### イ 少人数指導の充実を図るための工夫改善の視点

少人数指導のより一層の充実を図るためには，以下の点について工夫改善が必要であると考える。

子どもの「学習の状況」や「学習への志向性」を把握するための調査の視点の明確化  
子どもの意識調査の作成，実施，及び結果の分析・考察  
子どもの「学習の状況」や「学習への志向性」に応じた学習集団の編成方法の具体化  
学習集団内の子どもの「学習の状況」や「学習への志向性」に応じた指導方法の具体化

## ウ 子どもの「学習の状況」及び「学習への志向性」を把握するための調査の視点の明確化

### (ア) 「学習の状況」

「学習の状況」とは，学習した内容の理解の状況（習熟の程度）や学習内容の理解の速さ（理解の速度），学習活動への集中の状況（集中力）など，生徒の学習する能力及び学習した結果，獲得した知識・技能等のことで，本研究では，「理解の程度」としてとらえることとする。

### (イ) 「学習への志向性」

「学習への志向性」とは，たとえばじっくり時間をかけて問題を解くことが好きであるとか，説明を聞いて理解をすることが自分には合っているといった，個々の生徒が好む，あるいは自分に合っていると考える学習の仕方等のことで，本研究では，「学習集団の形態（一斉・グループ・個別）」，「学習内容（基礎・発展）」，「学習速度（じっくり・どんどん）」，「学習スタイル（説明理解・探究・ドリル）」，「言語領域や活動等への興味・関心」といった観点からとらえることとする。

## 2 子どもの意識調査の作成，実施，及び結果の分析・考察

### (1) 調査の目的

子どもが自己の「学習の状況」及び「学習への志向性」をどのようにとらえているのかを分析・考察し，それぞれの学習集団の編成とその傾向に応じた学習指導計画立案のための基礎資料とする。

### (2) 調査の対象

広島市立 B 中学校第 1 学年 4 学級 146 名

### (3) 調査時期

平成 16 年 10 月

### (4) 設問構成及び意識調査

< 7，8 ページ参照 >



「英語の学習に関する意識調査」設問構成表

調査領域	調査項目	調査内容		設問（選択肢）番号
学習の状況	理解の状況	理解の程度	十分に理解している だいたい理解している あまり理解していない ほとんど理解していない	設問 1 ( ) 設問 1 ( ) 設問 1 ( ) 設問 1 ( )
		理解の方法	丸暗記による理解 くり返しによる理解 構造化による理解 その他	設問 2 ( ) 設問 2 ( ) 設問 2 ( ) 設問 2 ( )
		理解の場	授業中 家庭学習 理解しないまま その他	設問 3 ( ) 設問 3 ( ) 設問 3 ( ) 設問 3 ( )
学習の志向性	学習集団の形態	一斉学習 グループ学習 個別学習 その他		設問 4 ( ) 設問 4 ( ) 設問 4 ( ) 設問 4 ( )
	学習内容	基礎的内容 発展的内容 その他		設問 5 ( ) 設問 5 ( ) 設問 5 ( )
	学習速度	じっくり型 どンドン型 その他		設問 6 ( ) 設問 6 ( ) 設問 6 ( )
	学習パターン	説明理解型 探究型 ドリル型 その他		設問 7 ( ) 設問 7 ( ) 設問 7 ( ) 設問 7 ( )
	言語活動への 興味・関心	話すこと 聞くこと 読むこと 書くこと その他		設問 8 ( ) 設問 8 ( ) 設問 8 ( ) 設問 8 ( ) 設問 8 ( )
	言語領域への 興味・関心	話すこと 聞くこと 読むこと 書くこと その他		設問 9 ( ) 設問 9 ( ) 設問 9 ( ) 設問 9 ( ) 設問 9 ( )

英語の学習に関する意識調査

調査のお願い

この調査はテストではありません。みなさんが、英語の学習についてどのように感じているかを知り、少人数による授業のより一層の充実を図るためのものです。

調査は無記名となっていますので、みなさんが思っていることをそのままに答えてください。

あなたのクラスをつぎの( )内に記入してください。

第1学年( )組

それぞれの設問についてあなたはどのように思いますか。各設問の選択肢の中であなたの思いに近いものを選び、その番号を( )内に記入してください。なお、「その他」を選んだ場合は、その内容を( )内に簡単に記入してください。

設問1 これまでの英語の授業で習ったことは理解していますか

十分に理解している  
 だいたい理解している  
 あまり理解していない  
 ほとんど理解していない

設問2 学習したことをどのように理解していますか

理屈抜きでとにかく覚えている  
 どうしてそうなるのか分からなくても、数多く問題を解くことにより理解している  
 どうしてそうなるのか順序立てて整理することにより理解している  
 その他( )

設問3 学習したことを主にいつ理解していますか

授業の中で  
 家庭学習で  
 理解しないままになっている  
 その他( )

設問4 どのような授業を受けたいですか

先生や友だちみんなで意見を言い合いながら問題を解いていく授業  
 小グループに分かれて、友だちと相談したり話し合ったりしながら問題を解いていく授業  
 分からないことがあったら、自由に先生に質問しながら自分のペースで問題を解いていく授業  
 その他( )

設問5 どのような学習内容の授業を受けたいですか。

教科書にのっていることが確実に分かるような授業  
 教科書にのっていない内容でも興味があればどんどん学習することができるような授業  
 その他( )

設問6 どのような学習の仕方の授業を受けたいですか。

自分の答えに納得できるまで、じっくり時間をかけながら学習が進む授業  
 自分の答えに多少納得できなくても、一つの問題にあまり時間をかけず、できるだけ多くの問題を解いて、間違ったところを後で確認しながら進む授業  
 その他( )

設問7 学習していることを理解するにはどのような授業が良いと思いますか。

先生の説明を聞いて、学習することを理解していく授業  
 学習することで分からない所を自分で調べたり、先生や友人に聞いて理解していく授業  
 できるだけ多くの練習問題を解くことにより理解していく授業  
 その他( )

設問8 授業では主にどのような活動をしたいですか。

実際に英語を使って人と話すること  
 英語のテープや先生(ALTも含む)が話す英語を聴くこと  
 英語の文章をノートなどに書くこと  
 教科書の本文の内容などを読むこと  
 その他( )

設問9 英語を使って、将来できるようになればいいと思うことは何ですか。

外国の人と英語で話すること  
 テレビやラジオなどを英語で聴くこと  
 外国の友だちなどに英語でEメールや手紙を書くこと  
 英語で書いてある新聞や雑誌などを読むこと  
 その他( )

英語の授業で、「こんなことがしたいな」、「こうなればいいな」と思うことがあれば書いてください。

ご協力ありがとうございました。

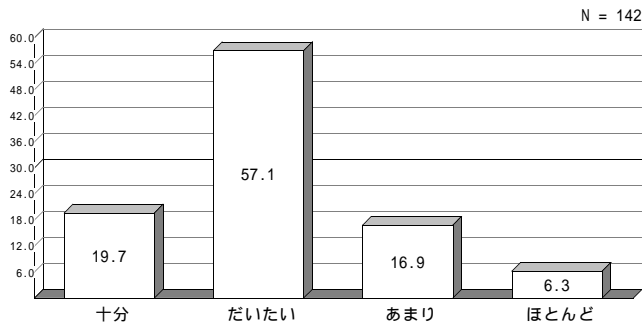
## (5) 調査の分析・考察

### 【理解の程度】

設問1「これまでの英語の授業で習ったことは理解していますか」(理解の程度)

十分理解している(十分)  
 だいたい理解している(だいたい)  
 あまり理解していない(あまり)  
 ほとんど理解していない(ほとんど)

No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4桁ゴリ



### <分析>

「十分」理解していると思っている生徒が 19.7%、「だいたい」が 57.1%で、「理解している」と肯定的にとらえている生徒の割合は合わせて 76.8%である。

「あまり」が 16.9%、「ほとんど」が 6.3%で、「理解していない」と自己の理解の程度を否定的にとらえている生徒の割合は合わせて 23.2%である。

### <考察>

定期考査の正答率を基準として教師が診断した習熟の程度別の生徒の割合は次のとおりである。

定期考査から見る習熟の程度 N = 146				生徒の意識 N = 142		
理解の程度	正答率(%)	人数	割合(%)	理解の程度	人数	割合(%)
十分	90 以上	25	17.1	十分	28	19.7
	80 ~ 89	18	12.3			
だいたい	70 ~ 79	23	15.8	だいたい	81	57.1
	60 ~ 69	16	11.0			
	50 ~ 59	20	13.7			
あまり	40 ~ 49	14	9.6	あまり	24	16.9
	30 ~ 39	5	3.4			
	20 ~ 29	9	6.2			
ほとんど	10 ~ 19	10	6.8	ほとんど	9	6.3
	9 以下	6	4.1			

「十分」と「だいたい」と回答した生徒の割合は、生徒の意識と教師の診断の数値に差が見られる。しかし、教師の診断の基準を、正答率 90%以上が「十分」、50% ~ 89%が「だいたい」と設定すると、生徒の割合は「十分」が 17.1%、「だいたい」が 52.8%で、数値の差は「十分」が 2.6ポイント、「だいたい」が 4.3ポイントとなり、生徒の意識と教師の診断の数値が近い値を示す。

「あまり」と「ほとんど」についても、生徒の意識と教師の診断の数値の差は「あまり」が 2.3ポイント、「ほとんど」が 4.3ポイントで、数値

が近い値を示している。

理解の程度の診断結果について、生徒の意識と教師の診断には多少の差は見られるものの、いずれの理解の程度の段階においてもその差は 5ポイント以下となっており、生徒は自己の理解の程度をある程度正しく認識していることが分かる。

以上のことから、次のことが言える。

- 理解の程度が「十分」だと判断する生徒の基準は、教師の判断基準よりも高く、定期考査の正答率を基準とすると、90%以上

の正答率となっている。

- 生徒は、自己の理解の程度をある程度正しく認識している。
- 理解の程度により学習集団を編成する場合、集団編成の基準を明確にすることにより、生徒は自分がどの集団に所属すべきかを、ある程度正しく判断することができる。
- 1クラス2展開という条件で、学習集団を編成する場合、学習集団を構成する生徒の習熟の程度は、おおむね次のようになる。

習熟の程度が十分な学習集団：

「十分」+ 1/2「だいたい」

習熟の程度が十分でない学習集団：

1/2「だいたい」+ 「あまり」+ 「ほとんど」

### <分析>

「丸暗記による理解」と「くり返しによる理解」がともに 33.8%、「構造化による理解」が 27.5%で、「構造化」に比べて「丸暗記」、「くり返し」により理解している生徒の割合が 6.3ポイント上回っている。

「その他」と回答した 4.9%の生徒の記述は、「適当にしている」、「先生に聞いて理解している」、「全然分からないから理解できない」である。

「理解の程度（設問1）」×「理解の方法（設問2）」

表 頭(X軸) No.3 学習したことをどのように理解していますか <S A> 4桁ゴリ  
表側1(Y軸1) No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4桁ゴリ

このことから、「だいたい」と回答した52.8%の生徒は、どちらの集団に所属すべきか迷う可能性

「学習  
成する

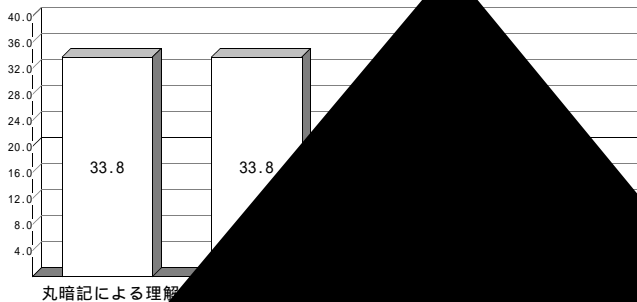
### 【理解の方法】

設問2「学習したことをどのように理解していますか」（理解の方法）

理屈抜きでとにかく丸暗記して覚えている  
どうしてそうなるのか順序立てて理解している  
どうしてそうなるのか順序立てて理解している（構造化による理解）  
その他

No.3 学習したことをどのように理解していますか <S A> 4桁ゴリ

N = 142



理解の程度が「**ほとんど**」と思っている生徒を除き、どの理解の方法においても、「丸暗記による理解」の割合が最も高い。

理解の程度が「**だいたい**」と思っている生徒は、「くり返しによる理解」の割合が 40.7%で最も高い。

理解の程度が「**ほとんど**」や「**ほとんど**」を含むどの理解の程度においても、「構造化」と回答した生徒の割合が最も高いと超えている。

### <考察>

理解の程度を、「理解の深化の程度」としてとらえるならば、「くり返しによる理解」や「丸暗記による理解」に比べて「構造化による理解」が最も理解が深まっている状態であると言える。

教師は、言語活動をくり返し行うことにより、生徒の「構造化による理解」をめざした授業づくりを行っている。このことから、少なくとも全体の 27.5%の生徒は、教師の指導目標に沿っ

た理解の仕方をしていると言える。

「理解の程度（設問1）」×「理解の方法（設問2）」の集計結果を見ると、「構造化」と回答した生徒の割合が、どの理解の程度においても20%を超えているということから、次のことが言える。

- ・ 個々の理解の程度に合わせて、「構造化による理解」を図る指導が可能である。
- ・ 「くり返し」により理解していると回答した生徒の割合は33.8%であるが、「くり返しによる理解」は、結果として、無意識的な「構造化」に至っている場合と、単なる「丸暗記」になってしまっている場合があり、これらの生徒がどちらの理解に至っているのかは今回の調査では分析できない。

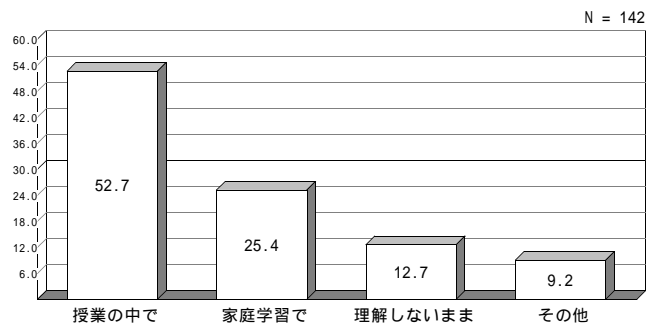
以上のことから、どの理解の程度においても、それぞれの理解の程度に応じて、生徒の「構造化による理解」を図る学習指導の方法を工夫する必要がある。

### 【理解の場】

設問3「学習したことを主にいつ理解していますか」（理解の場）

- 授業の中で
- 家庭学習で
- 理解しないままになっている
- その他

No.4 学習したことをいつ理解していますか <S A> 4桁ゴリ



<分析>

「授業の中で」が52.7%で、生徒のほぼ半数

が、主に授業の中で学習内容を理解している。

「家庭学習で」が25.4%で、生徒の1/4が主に家庭学習で学習内容を理解している。

「理解しないまま」次の授業を受けている生徒が12.7%いる。

「その他」と回答した9.2%の生徒の記述は、「塾で」「授業と家庭学習で」「習いごとで」である。

「授業の中で」または「家庭学習で」理解している生徒の割合は78.1%で、「その他」の9.2%を合わせた87.3%の生徒が、学習内容を理解しないままにならないように、理解する場を設けている。

「理解の程度（設問1）」×「理解の場（設問3）」

表 頭(X軸) No.4 学習したことをいつ理解していますか <S A> 4桁ゴリ  
表側1(Y軸) No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4桁ゴリ

	授業の中で	家庭学習で	理解しないまま	その他	N	
全体	52.7		25.4	12.7	9.2	142
十分	75.0			17.9	7.1	28
だいたい	59.3		25.9	9.9		81
あまり	25.0	33.3	37.5			24
ほとんど	22.2	55.6		22.2		9

<分析>

理解の程度が「十分」と思っている生徒の75.0%が「授業の中で」学習したことを理解している。この割合は「だいたい」が59.3%、「あまり」が25.0%と理解の程度が低いと思っっている生徒ほど低くなり、「ほとんど(していない)」と思っっている生徒で「授業の中で」学習したことを理解していると回答した生徒はいない。

理解の程度が「十分」と思っっている生徒は「理解しないまま」にしている生徒はいないが、「だいたい」と思っっている生徒の4.9%、「あまり」と思っっている生徒の37.5%、「ほとんど(していない)」と思っっている生徒の55.6%が「理解しないまま」にしており、自己の理解の程度が低いと思っっている生徒ほど、「理解しないまま」にしている割合が高い。

<考察>

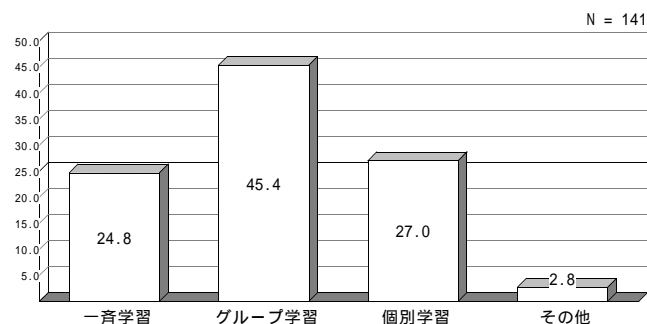
「理解しないまま」と回答した生徒が、全体の12.7%いる。これらの生徒の「理解の程度」の状況を見ると、理解の程度が「だいたい」と思っている生徒が4.9%、「あまり」が37.5%、「ほとんど(していない)」が55.6%であり、自己の理解の程度が低いと思っている生徒ほど、「理解しないまま」にしている割合が高い。分からないことをそのままにしていることが、次の授業内容をさらに理解できない原因となっている

【学習集団の形態】

設問4「どのような授業を受けたいですか(学習集団の形態)

- 先生や友だちみんなで意見を言い合いながら問題を解いていく授業(一斉)
- 小グループに分かれて、友だちと相談したり話し合ったりしながら問題を解いていく授業(グループ)
- 分からないことがあったら、自由に先生に質問しながら自分のペースで問題を解いていく授業(個別)
- その他

No.5 どのような授業を受けたいですか <S A> 4カテゴリ



<分析>

「グループ」が45.4%と最も高い割合を示し、「個別」(27.0%)、「一斉」(24.8%)と続く。

「個別」と「一斉」の割合の差は2.2ポイントである。

習熟の程度	学習集団の形態	学習内容	学習速度	学習スタイル
十分	グループ 個別	発展的内容	どんどん型	探究型 ドリル型
不十分	一斉 個別	基礎的内容	じっくり型	説明理解型 ドリル型

「その他」と回答した2.8%の生徒の記述は「ふつうのままの授業を受けたい」などである。

「理解の程度(設問1)」×「学習集団の形態(設問4)」

理解の程度	一斉	グループ	個別	N
十分	24.8	45.4	27.0	141
だいたい	57.1	35.7		28
あまり	20.0	46.2	31.3	80
ほとんど(していない)	8.3	54.2	33.3	24
その他	11.1	44.5	44.4	9

<分析>

理解の程度が「十分」と思っている生徒は、「一斉」による学習を志向する生徒

「英語の学習に関する意識調査」を行った広島市立N中学校の第1学年英語科における習熟度

別による少人数指導においても、一般的な傾向とほぼ同じような形で実施されている。

コース	習熟の程度	学習集団の形態	学習内容	学習速度	学習スタイル
Bコース	十分	グループ 個別	発展的内容		
Aコース	不十分	一斉 個別	基礎的内容		説明理解

「理解の程度」と「学習集団の形態」の関係は、習熟の程度が十分な学習集団では「グループ」や「個別」が、習熟の程度が十分でない学習集団では「一斉」や「個別」による学習が展開される傾向がある。しかし、「理解の程度（設問1）」と「学習集団の形態（設問4）」のクロス集計の結果を見ると、理解の程度が「十分」と思っている生徒の57.1%が「グループ」や「個別」による学習よりも「一斉」による学習への志向が強い。このことから、「習熟の程度が十分な学習集団」に対して「グループ」や「個別」による学習が効果的であるとは必ずしも言い切れない。

1クラス2展開の学習集団編成においては、理解の程度が「だいたい」と思っている生徒が、どちらの学習集団にも存在することになる。

理解の程度が「だいたい」、「あまり」、「ほとんど（していない）」と思っている生徒の学習の形態における志向性は似たような傾向を示し、「グループ」による学習を志向する生徒の割合がいずれも40%を超えている。このことから、理解の程度が「だいたい」、「あまり」、「ほとんど」と思っている生徒で構成される学習集団においては、「グループ」による学習を柱としながら、必要に応じて「個別」や「一斉」による学習を取り入れるといった工夫をすることにより、より効果的な指導が可能になると考えられる。

理解の程度が「十分」と思っている生徒と「だいたい」と思っている生徒の学習集団の形態における志向性は異なっているので、両者が存在する学習集団においては、どちらの志向性を尊重した学習集団の形態にするのかを慎重に決め

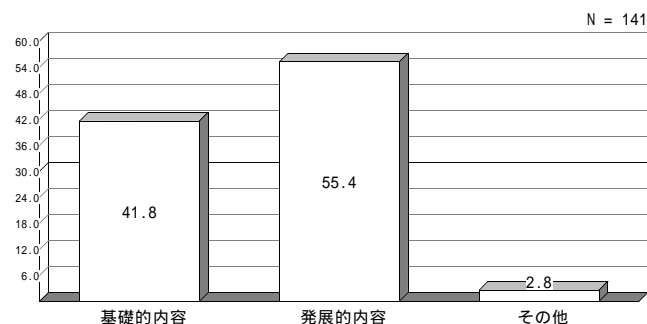
るとともに、授業において、設定された学習集団の形態をはじめ、学習内容等などが自分の志向に沿ったものとなっていない生徒に対する支援の工夫が必要である。

### 【学習内容】

設問5「どのような学習内容の授業を受けたいですか」（学習内容）

- 教科書にのっていることが確実に分かるような授業（基礎的内容）
- 教科書にのっていない内容でも興味があればどんどん学習することができるような授業（発展的内容）
- その他

No.6 どのような学習内容の授業を受けたいですか <S A> 3桁ノリ



### <分析>

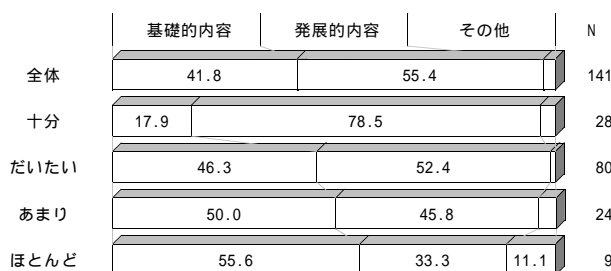
「発展的内容」が55.4%で、過半数を占める。

「基礎的内容」が41.8%

「その他」の記述内容は「『基礎的内容』と『発展的内容』がうまく合わさった授業」、「ふつうのままの授業」である。

「理解の程度(設問1)」×「学習内容(設問5)」

表 頭(X軸) No.6 どのような学習内容の授業を受けたいですか <S A> 3桁コリ  
表側(Y軸1) No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4桁コリ



<分析>

理解の程度が「十分」と思っている生徒で、「発展的内容」を志向する生徒の割合は 78.5 %で、「基礎的な内容」(17.9 %)に比べて割合が高い。

理解の程度が「十分」と思っている生徒の 17.9 %が「基礎的内容」を志向している。

理解の程度が「だいたい」と思っている生徒

の 46.3 %は「基礎的内容」を、52.4 %は「発展的内容」を志向している。

理解の程度が「あまり」と思っている生徒の 45.8 %、理解の程度が「ほとんど(していない)」と思っている生徒の 33.3 %は、「発展的内容」を志向している。

理解の程度が高いと思っている生徒ほど「発展的内容」を志向する割合が高い。

理解の程度が低いと思っている生徒ほど「基礎的内容」を志向する割合が高い。

<考察>

「理解の程度」と「学習内容」の関係は、習熟の程度が十分な学習集団では「発展的内容」が、習熟の程度が十分でない学習集団では「基礎的内容」が取り扱われている傾向がある。

習熟の程度	学習集団の形態	学習内容	学習速度	学習スタイル
十分	グループ別	発展的内容	どんどん型	探究型 ドリル型
不十分	一斉別	基礎的内容	じっくり型	説明理解型 ドリル型

しかし、「理解の程度(設問1)」と「学習内容(設問5)」のクロス集計の結果から、次のことが言える。

- 理解の程度が「十分」と思っている生徒の中にも「基礎的内容」を志向している生徒が 17.9%いることから、「発展的内容」を中心にしながらも、17.9%の生徒の志向にも応えるために、「基礎的内容」の確実な定着を図る授業を展開する必要がある。
- 理解の程度が「あまり」と思っている生徒の 45.8 %、「ほとんど(していない)」と思っている生徒の 33.3 %が、「発展的内容」を志向していることから、「基礎的内容」の確実な定着を図る指導を中心としながらも、彼らの理解の程度に応じた「発展的内容」について学習する場を設定するといった工夫をすることにより、生徒の学習への意欲

を高め、学習内容の理解を深める指導を展開する必要がある。

- 理解の程度が「だいたい」と思っている生徒の学習内容への志向の傾向は、「基礎的内容」が 46.3 %、「発展的内容」が 52.4 %で、その割合はほぼ半々である。このことから、「だいたい」と思っている生徒の志向に応える学習内容を、生徒の実態に応じて工夫していく必要がある。

【学習速度】

設問6 「どのような学習の仕方の授業を受けたいですか」(学習速度)

自分の答えに納得できるまで、じっくり時間をかけながら学習が進む授業(じっくり型)

自分の答えに多少納得できなくても、一つの問題にあまり時間をかけず、できるだけ多くの問題を解いて、間違ったところを後で確認しながら進む授業(どんどん型)

その他



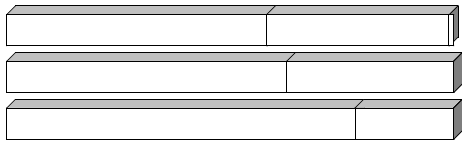
<分析>

「じっくり型」が約 60 %を占める。

「どんどん型」が約 40 %である。

「理解の程度（設問 1）」 × 「学習速度（設問 6）」

表 頭 (X軸) No.7 どのような学習の仕方の授業を受けたいですか <S A> 3桁コリ  
表側 1 (Y軸1) No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4桁コリ



## 【学習スタイル】

### 設問7「学習していることを理解するにはどのような授業が良いと思いますか」(学習スタイル)

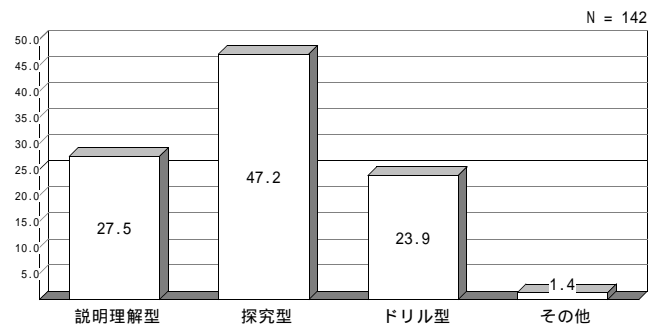
先生の説明を聞いて、学習することを理解していく授業(説明理解型)

学習することで分からない所を自分で調べたり、先生や友達に聞いて理解していく授業(探究型)

できるだけ多くの練習問題を解くことにより理解していく授業(ドリル型)

その他

No.8 学習内容を理解するのによい授業は <S A> 4カテゴリ



#### <分析>

「探究型」が47.2%で、最も高い割合を示し、「説明理解型」(27.5%)、「ドリル型」(23.9%)と続く。

「その他」の記述内容は、「いろいろな活動やゲームを通して覚えていく授業」である。

### 「理解の程度(設問1)」×「学習スタイル(設問7)」

表頭(X軸) No.8 学習内容を理解するのによい授業は <S A> 4カテゴリ  
表側1(Y軸1) No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4カテゴリ

理解の程度	説明理解型 (%)	探究型 (%)	ドリル型 (%)	その他 (%)	人数
十分	21.4	53.6	25.0		28
だいたい	28.4	46.9	23.5		81
あまり	25.0	41.7	33.3		24
ほとんど	44.5				

#### <分析>

どの理解の程度においても、「探究型」を志向する生徒の割合は40%を超えており、「ほとんど(していない)」を除き、他の学習スタイルよりも高い割合を示している。

「ほとんど(していない)」と思っている生徒で「ドリル型」を志向している生徒はいない。

#### <考察>

「理解の程度」と「学習スタイル」の関係は、習熟の程度が十分な学習集団では「探究型」や「ドリル型」の学習が、習熟の程度が十分でない学習集団では「説明理解型」や「ドリル型」の学習が展開されている傾向がある。

## 【学習活動への興味・関心】

設問 8 「授業では主にどのような活動をした  
いですか」(言語活動への興味・関心)

- 実際に英語を使って人と話すこと(話すこと)
- 英語のテープや先生(ALTも含む)が話す英語を聴くこと(聞くこと)
- 英語の文章をノートなどに書くこと(書くこと)
- 教科書の本文の内容などを読むこと(読むこと)
- その他

### <分析>

「書くこと」が 32.7 %で割合が最も高く、「聞くこと」(28.4 %)、「話すこと」(26.2 %)と続く。

「読むこと」は 9.2 %で、全体の 1 割を切っている。

「理解の程度(設問 1)」×「言語活動(設問 8)」

表 頭(X軸) No.9 授業ではどのような活動をしたいですか <S A> 5桁  
表側1(Y軸) No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4桁



### <分析>

理解の程度が「十分」と思っている生徒は、「話すこと」の活動を志向する割合が 42.8 %で最も高く、「書くこと」(28.6 %)と続く。これらの「話すこと」、「聞くこと」などの表現に関する活動群の割合は合わせて 71.4 %で、「聞くこと」(10.7 %)、「読むこと」(14.3 %)などの理解に関する活動群(合わせて 15.0 %)に比べて、その割合が高い。

【言語領域への興味・関心】

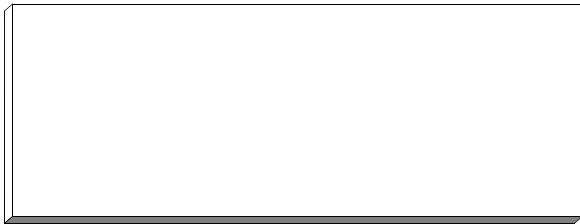
設問9 「英語を使って、将来できるようになればいいなと思うことはなんですか」

(言語領域への興味・関心)

- 外国人の人と英語で話をする事(話すこと)
- テレビやラジオなどを英語で聴くこと(聞くこと)
- 外国の友だちなどに英語でEメールや手紙を書くこと(書くこと)
- 英語で書いてある新聞や雑誌などを読むこと(読むこと)
- その他

No.9 授業ではどのような活動をしたいですか <S A> 5カテゴリ

N = 141



<分析>

「話すこと」が 50.0 %で半数を占め、「読むこと」23.2 % , 「聞くこと」15.5 %と続く。

「聞くこと」は 8.5 %で、全体の1割を切っている。

「理解の程度(設問1)」×「言語領域(設問9)」

表 頭(X軸) No.10 将来できるようになればいいなと思うことは <S A> 5カテゴリ  
表例1(Y軸1) No.2 授業で習ったことを理解していますか <S A> 4カテゴリ

	話すこと	聞くこと	書くこと	読むこと	その他	N
全体	50.0	8.5	15.5	23.2		142
十分	67.8			25.0		28
だいたい	53.1	6.2	16.0	22.2		81
あまり	33.3	16.7	20.8	25.0		24
ほとんど	11.1	22.2	33.4	22.2	11.1	9

<分析>

理解の程度が「十分」と思っている生徒は、「話すこと」を志向する割合が 67.8 %で最も高く、「読むこと」(25.0 %)が続く。「聞くこと」、「書くこと」は共に 3.6 %である。

理解の程度が「だいたい」、「あまり」と思っている生徒は、それぞれの言語領域への志向の割合に差異はあるが「話すこと」への志向の割合が最も高く、「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」の順となっている。

習集団においては、「グループ」による学習を柱としながら、必要に応じて「個別」や「一斉」による学習を取り入れる。

「基礎発展コース」は、「発展的内容」を中心にしながらも、「基礎的内容」の確実な定着を図る授業を展開する。

「基礎充実コース」は、「基礎的内容」の確実な定着を図る指導を中心としながら、理解の程度に応じた「発展的内容」を学習する場を設定して、学習への意欲を高め、学習内容の理解を深める指導を展開する。

どの学習集団においても、生徒が「じっくり」学習することにより十分理解できたと実感できるような学習の場を仕組む。併せて、自分のペースでどんどん学習できる場も設定する。

どの学習集団においても、習熟の程度に応じて探究的な学習内容や指導方法の工夫をする。

### 3 学習集団の編成及び学習指導計画案の作成

#### (1) 少人数学習コース希望調査

学習集団の編成に当たっては、B 中学校の少人数学習集団編成のコンセプト及び意識調査の結果を踏まえ、次の点に留意することとした。

##### 少人数学習集団編成のコンセプト

- ・ 1 学級 2 展開での学習集団を編成する。
- ・ 習熟度別の学習集団を編成する。  
意識調査の結果から導き出した留意事項
- ・ テスト等、習熟の程度の判定材料のみで学習集団を編成しない。
- ・ 習熟度別の二つの学習集団における学習方法及び学習内容を二極化しない。

このことを踏まえ、学習集団（コース）の希望調査では、各コースの学習方法及び学習内容の概要を示すことにより、生徒が自己の学習の理解の程度及び学習への志向性を踏まえて、コース選択ができるようにするとともに、生徒一人一人の学習の志向性を把握することができるように、次のように希望調査用紙を工夫した。

#### 英語科少人数学習コース希望調査

第 1 学年（ ）組（ ）番 名前（ ）

あなたの気持ちにあてはまるものを選びましょう。

1 どちらのコースで学習したいかを選んで の中に 印を記入してください。

##### 【基礎充実コース】

基礎的な内容について十分に説明を聞いた後で、問題を解いたりして、基礎的な内容をしっかりと理解していく授業です。

##### 【基礎発展コース】

基礎的な内容について勉強した後、発展的な内容についても勉強し、難しい問題などにどんどんチャレンジしていく授業です。

2 つぎの各項目は、それぞれのコースの授業で、中心となる学習内容・方法です。自分に合っていると思うものに 印をつけてください。

印はいくつつけてもかまいません。

「基礎充実コース」を選んだ人

「基礎発展コースを」選んだ人

↓

教科書にのっている内容が中心で、学習の状況に応じて教科書にのっていない内容も扱う授業

先生の説明がたっぷりある授業

じっくり問題を解いていく授業

先生がそばについて、分からないところを説明してくれる授業

グループや自分で問題を解決していく授業

基本問題をどんどん解いていく授業

↓

教科書にのっている内容を学習した後で、教科書にのっていない内容も興味がある内容を扱う授業

先生や友だちみんなで問題を解いていく授業

どんどん問題を解いていく授業

分からないことは先生に質問ながら、自分のペースで学習できる授業

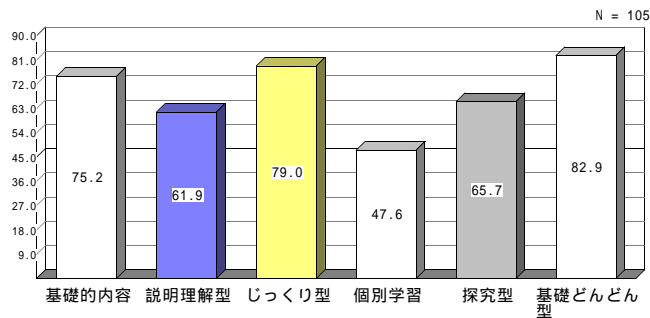
グループや自分で問題を解決していく授業

応用問題をどんどん解いていく授業

## (2) コース希望調査結果

希望調査から見られるそれぞれのコースを選んだ生徒の志向性の傾向は次のとおりである。

No.2 学習への志向性 <MA> 6桁7リ



### <分析>

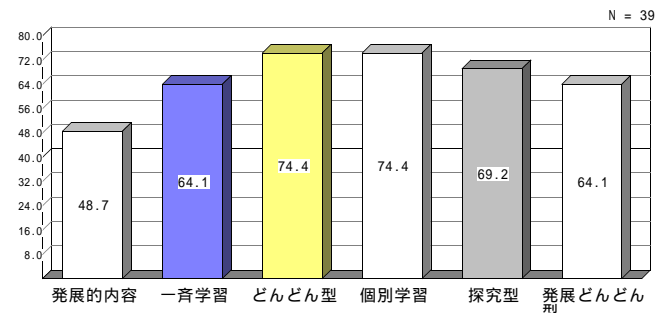
希望調査の結果は4クラス合計で、「基礎充実コース」を希望した生徒数が105人、「基礎発展コース」を希望した生徒数が39人で、「基礎充実コース」に集中した。

#### 【基礎充実コース】

「基本問題をどんどん解いていく授業（基礎どんどん型）」を選んだ生徒の割合は82.9%と最も多く、「じっくり問題を解いていく授業（じっくり型）」が79.0%、「教科書にのっている内容が中心で、学習の状況に応じて教科書にのっていない内容も扱う授業（基礎的内容）」が75.2%と続く。

基礎充実コースであるものの、「グループや自分で問題を解決していく授業（探究型）」が65.7%で「先生の説明がたっぷりある授業（説明理解型）」（61.9%）よりも志向の度合いが強い。

No.2 学習への志向性 <MA> 6桁7リ



#### 【基礎発展コース】

「どんどん問題を解いていく授業（どんどん型）」「分からないことは先生に質問ながら、自分のペースで学習できる授業（個別学習）」を選んだ生徒の割合はともに74.4%で最も多く、「グループや自分で問題を解決していく授業（探究型）」が69.2%と続く。「教科書にのっている内容を学習した後で、教科書にのっていない内容も興味がある内容を扱う授業（発展的内容）」を選んだ生徒の割合は48.7%と50%を切っている。

### <考察>

基礎充実群で「基礎的内容」を志向している

割合が高いのに対し、基礎発展群で「発展的内容」を志向している割合がそれほど高くないことから、学習内容の決定に当たっては、いずれのコースにおいても、まず、基礎的内容に重点を置くことが重要である。

いずれのコースもそれぞれの習熟の程度に合わせ、どんどん問題を解いていく学習を思考している割合が高いことから、自分に合った学習内容を、自分のペースで、ドリル的に繰り返す学習を学習計画の中に位置づけることが重要である。

いずれのコースにおいても、探究内容を工夫することによって、「探究型」の学習を取り入れた学習計画を立てることが重要である。

習熟度別の学習集団編成をする場合、生徒が「学力によって分けられた」という意識をもつことは、学習成果を上げるうえでマイナスの要因となる。この度の希望調査の結果を見ると、B中学校における習熟度別の学習集団を編成するに当たって、そのような意識は見られない。それは、学習集団を編成するに当たり、次のことに留意したことが有効であったと考えられる。

- ・ テスト等習熟の程度の判定材料のみで学習集団を編成しない。
- ・ 習熟度別の二つの学習集団における学習方法及び学習内容を二極化しない（それぞれの学習集団に所属する生徒の学習への志向性を踏まえたものにする）。

さらに、それぞれのコースの学習内容等を具体的に示したことにより、生徒はそれぞれのコースの違いを「学力による違い」と受けとめていなかったのではないかと推察される。

一方、「1学級2展開での学習集団を編成する。」というB中学校の少人数学習集団編成のコンセプトにより、「基礎充実コース」を希望した105人のうちおよそ30名が「基礎発展コース」に所属することになる。

それらの生徒の多くは、意識調査における「理解の程度」で「だいたい理解できている」ととらえているととらえている生徒で、全体で57.1%いる生徒の中で「基礎充実コース」を希望している生徒のうちのだれがコース変更すべきなのかを見極めることは大変困難であると共に、次のような課題が浮かび上がってくる。

「基礎充実コース」には、「理解の程度」が「だいたい理解できている」「あまり理解できていない」「ほとんど理解できていない」と意識している生徒が所属することになる。  
「基礎発展コース」には、「理解の程度」が「十分理解できている」「だいたい理解できている」と意識している生徒が所属することになる。

このことから、「学習の志向性」に応える学習指導が困難になるのではないかと考えられる。

このような課題を解決するためには、1学級3展開にすることがより望ましいのは当然のことではあるが、人的・物的・時間的・経済的条件等により、本研究では、1学級2展開による少人数指導の実施というコンセプトにより、このような状況の中での1学級2展開による少人数指導の効果をより高めるための学習指導法について実践的に探っていくこととした。

## 4 学習指導案及び自己評価表の作成

### (1) 学習指導案の作成

「英語の学習に関する意識調査」の結果の分析・考察と「英語科少人数学習コース希望調査」を踏まえ、「基礎充実コース」「基礎発展コース」の学習指導計画及び学習指導案を作成した。

学習指導計画及び学習指導案の作成に当たっては、次のことに留意した。

「基礎充実コース」、「基礎発展コース」共に、学力の確実な定着を図ることをめざし、指導目標は同じにする。

指導目標達成のための手だてを、それぞれのコースの生徒の学習の状況及び学習への志向性に基つき具体化する。

- 1 日時 平成16年 月 日( )  
 2 場所 広島市立B中学校  
 3 学年・学級 1年組 コース(男子 名 女子 名)  
 4 題材 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 PROGRAM 9 「カードをもらってうれしいな」

## 5 本課のねらい

- (1) 一般動詞の過去形の規則変化と、過去形の肯定文、疑問文の文構造を理解する。  
 (2) 過去形を用いて過去の出来事を相手に伝えたり、相手の過去の出来事について尋ねたりすることができる。  
 (3) 場所を尋ねる疑問詞(where)の用法を理解し、場所を尋ねたり"Where~?"で尋ねられた質問に対して答えることができる。  
 (4) 言語の働きを意識しながら過去形を用いてコミュニケーションを図ることができる。

## 6 題材について

## 教材観

本課で扱う言語材料は、一般動詞の過去形と疑問詞 where である。一般動詞の過去形は、現在形、現在進行形の学習に続き、時制に関する言語材料であり、自分の過去の行動について相手に伝えるたり、相手の過去の行動を尋ねたりすることにより、過去の事実について確認をしたり、自分がしたことを話題としてコミュニケーションのきっかけを作ったりするなど、日常会話ではよく使われる表現である。

本課では、由紀がおばさんからバースディカードをもらったが、アンディからはもらっていないという場面での、由紀の思いや由紀を慰めるリサの思いなどを背景として、過去の表現を読む設定となっており、中学生が本文の状況をイメージしやすく、生徒にとっては興味がもちやすいとともに「言語の使用場面」と「言語の働き」を意識しながら読み進めることができる題材となっている。

## 生徒観

意識調査の結果によると、本学年の生徒は、英語に対して興味・関心をもっていると答えた生徒が78%、英語の授業に意欲的に取り組めると答えた生徒が86%で、これまで実施してきた少人数指導により学習意欲の向上が見られる。英語の学習に対してあまり積極的でなかった生徒も、より楽しんで学習に取り組んでいるようである。

本学年は、4月中頃から1学級2展開の少人数指導により授業を進めている。学習集団は「基礎充実コース(基礎的な内容について十分に説明を聞いた後に、問題を解いたりして、基礎的な内容をしっかりと理解していくコース)」と、「基礎発展コース(基礎的な内容について勉強した後、発展的な内容についても勉強し、難しい問題などにどんどんチャレンジしていくコース)」を設定している。



## 【基礎充実コース】

本コースはアンケート調査の結果、基礎的な内容をじっくりと学習したい生徒がほとんどである。授業に対して積極的な生徒が多い。積極的に発表する生徒は少ないものの、発問に対しては自分なりに考え、つぶやきなどによる反応を多く見せるなど、学習に対しては前向きな姿勢が見られる。しかし、英語に苦手意識を持っており、既習事項の定着が十分でない生徒も半数弱いる。

## 【基礎発展コース】

本コースはアンケート調査の結果、基礎的な内容に加え発展的要素を含んだ内容を学習したいと考えている生徒がほとんどである。授業に対して意欲的で、積極的に発表する生徒が多い。未習事項にも関心を持ち、知りたいことや分からないことについて積極的に質問する姿も見られる。加えて、グループで一つの課題に対してじっくり取り組むことを好む生徒も多い。しかし、1学級2展開での学習集団編成を行っているため、習熟の程度に個人差が見られる。

## 指導観

これらの生徒に対しては教材・教具の工夫を行い、学習に興味・関心をもたせるとともに、ワークシートの工夫や机間指導などにより、個別に指導をしていきたい。

発展的な内容を視野に入れながらも、基礎的な内容の定着が十分に図られるようにする。  
 生徒個々の学習の状況を把握し、それぞれの課題に応じたきめ細かな指導をしていきたい。



評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>過去形を用いて相手の過去の状況や行為を確認しようとしたり、自分の過去の状況や行為を相手に伝えようとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去形を用いて相手の状況や行為を確認したり、自分の過去の状況や行為を相手に伝えたりすることができる。</li> <li>疑問詞の where を用いて、場所を尋ねたり、確認したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去形を用いて、尋ねた相手の意向を理解することができる。</li> <li>疑問詞の where が何を表しているのかを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動詞の過去形の変化が分かる。</li> </ul>

7 本時のねらい

一般動詞の過去形構造（規則変化）を理解し、過去形を用いて自分の過去の行動や状況を伝えることを通して、コミュニケーション活動を図ることができる。

8 学習過程【基礎充実コース】

時間	過程	学習活動 (発問と反応)	指導( )と支援( )	判定基準と評価方法 [ 観点 ]
10分	つかむ	<p>Greeting</p> <p>Good afternoon, everyone. How are you? How's the weather today? What day is today? What the date today?</p> <p>Q &amp; A</p> <p>昨日学校や家でしたことを質問し、それについて答える。 "What did you do yesterday?"</p>	<p>教師が元気よくあいさつをし、雰囲気作りをする。</p> <p>Short phrase でもいいので、大きな声で言うように促す。 この次点で過去形は未習なので、現在形で答えてもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問に対して、英語で答えようとしているか。</li> </ul> <p>[ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ] &lt; 観察 &gt;</p>
30分	考える	<p>1 過去形の導入</p> <p>(1)課題に気づかせるための場面設定 Listening the song.</p> <p>「この歌のこの部分は「～した」という意味だけど、どのように聞こえますか？」</p> <p>(2)過去形について説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>今日の目標</p> <p>I played soccer. 自分が過去にした行動を伝える。</p> </div> <p>日本語で「～した」という過去の表現に当たるものが"-d","-ed"であることを説明する。 (板書例) I played soccer.</p> <p>(3)導入のQ &amp; Aをもう一度行う。</p> <p>(4)Activity</p> <p>以下の英文を板書し、____に 動詞を入れて言う。</p> <p>"I _____ yesterday"</p> <p>ワークシートに英文を記入し、ペアワークを行う。</p>	<p>歌詞カードから、ポイントとなる部分の英語を聞き取る。 聞き取りが難しい生徒に関しては、どの部分を聞くのかを示唆する。 歌詞カードの日本語訳から、動詞の原形を導き、それが歌ではどのように発音されているのかを気づかせる。 一般動詞の過去形は、動詞の語尾に"-d", "-ed"をつけて表現することを理解させる。 (板書) 昨日したことを日本語で発表させ、出てきた動詞を過去形に変化させる。このとき、未習の動詞についても提示する。不規則変化動詞については触れない。 動詞の変化について理解が難しい生徒については机間指導によりヒントを与えたり、一例を示したりすることによって理解しやすくさせることで動詞の変化を理解させ、過去形で表現できるようにする。 動詞が思い出せないときは、ヒントを与え、未習の動詞を使うときは、その単語を示すことにより、表現したい内容を自分なりに表現できるようにする。 Q &amp; Aで出てきた動詞を利用して、過去の英文をリピートさせる。</p> <p>近くの生徒とペアワークを行うようにする。 机間指導を実施し、英単語の意味が理解できなかったり、表現に戸惑っている場合にはヒントを与えたりして、教師がその pair に加わって活動をしやすくする。</p>	<p>質問に対して、過去形を使って答えようとしている。</p> <p>[ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ] &lt; 観察 &gt;</p> <p><b>積極的に活動(自分から話しかけているか、英語を使っているか)に参加している。</b></p> <p>[ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ] &lt; 観察 &gt;</p> <p>B:英語を使って、話そうとしている。</p>

	相手が昨日したことをワークシートに記入させる。	ワークシートに Activity の結果を書く。	過去形を使って、自分の行動を伝えることができる。 [言語や文化についての知識・理解]
10分	深め (5)Presentation Activity から、友だちの週末の行動を発表する。 ・今日のポイントをもう一度確認する。  ・今日の活動を評価する。 ・宿題の内容を理解する。 Greeting	挙手による発表が少ない場合は、指名の回数を増やす。 ワークシートを利用して、過去形の英文を書くように指示する。 自己評価表に記入する。 今日の活動について評価し、表現する課題を提示することで次時の学習活動への意欲を持たせる。	<観察> B:過去形を使って自分の行動を表現している。 (例) I played tennis. I studied English. I watched TV. など

## 8 . 学習過程【基礎発展コース】

時間	過程	学習活動 (発問と反応)	指導( )と支援( )	判定基準と評価方法 [観点]
10分	つかむ	Greeting Good morning, everyone. How are you? How 's the weather today? What day is today? What 's the date today?  Q & A 今週末にすることを質問する。	教師側から元気に挨拶することで、楽しく学習していこうとする雰囲気を作る。  不完全な文でもいいことを伝え、できるだけ多くの生徒が英語を用いて意見を言えるように促す。	・質問に対して、英語で答えようとしているか。 [関心・意欲・態度] <観察>
30分	考え	過去形導入 現在形との対比 「What do you usually do on Wed. eve.?’  e.g.) I listen to music.  「What <b>did</b> you do <b>yesterday</b> eve.?’ 「What <b>did</b> you do on Wed. eve.?’ 「前の質問とどこが違いますか。」 「過去のことはどのように表現したらよいのでしょうか」  <b>今日の目標</b> <b>過去のことを表現する方法を学ぶ。</b> e.g.) I usually listen to CDs but yesterday evening I listened to the radio. I played baseball. A man hit some home runs. My mother cooked curry & rice. We used a spoon. I watched (a TV programme). 「・・・の発音はしやすいですか？」 「どの単語が難しいですか？」  Activity (group work) 「これからグループでどのように発音したら一番読みやすいか考えてみましょう。」 「できたら同じ発音だと思うものをそれぞれ仲間分けしてみましょう。」  結果発表	何も出てこない場合は追加質問をする。 「Do you listen to the radio on Wed. eve.?’  過去の部分を強調し、違いに注意を向けさせる。 過去はどのように表したらよいのかを意識させる。 昨日の晩、学校を出てからしたことの一部分を話す。 まず、一つ例を出して基本の発音[d]を押さえると同時に、現在形との形の違いに気付かせる。 順を追って過去形の部分を板書していく。 表現が難しい部分は日本語を交えながら話を進めていく。 過去形の形は ed が基本だが、ed のみではないということに気付かせる。  板書した文の単語で、過去形の最適な読み方を探していくよう指示する。 実際に声に出して探していってみるよう促す。 こちらがいくつか発音を与え、その発音を頼りに探してみるように言う。 どうしても難しい場合は2つに分類するよう指示を出す。  ひとつのグループにモデルとして分類してもらい、違う意見があれば、全体の場で検討していく。 声に出して練習する	・今日の目標が理解できているか。[知識・理解] <観察>  <b>積極的に活動(実際に声を出しているか)しようとしているか。 [関心・意欲・態度]</b>  <観察> B:過去の動詞を発音し、正しい音を探そうとしている。
	深	・今日のポイントをもう一度確認する。 ・今日の活動を評価する。	ワークシートを用いて、過去形の文を書くよう指示する。 自己評価をシートに記入する。	過去形を使って、過去の事実を書き表すことができる。 [表現の能力]

10分	め る	・宿題の内容を理解する。  Greeting	今日の活動について評価をし、次時からの学習活動にも意欲的に取り組めるようにする。	<ワークシート> B:一般動詞の語尾に~ed を正しくつけることができる。
-----	--------	------------------------------	--	---

## (2) 自己評価表の作成

意識調査に基づく学習集団編成及び学習指導計画の立案が、生徒の学習への志向性に沿ったもの

になっているかどうかを把握するために、次のような自己評価表を作成し、各授業後に調査を行った。

### 英語学習ふり返しシート

1年\_\_組\_\_番 名前\_\_\_\_\_

つぎの(1)～(7)のことがらについて、今日の授業をふり返し、内にもっともあてはまる番号を記入してください。

4 とてもそう思う 3 どちらかといえばそう思う 2 どちらかといえばそう思わない 1 そう思わない

今日の授業で・・・

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| (1) 疑問に思ったことや、新たに知りたいなと思ったことがあった | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| (2) 新しいことを知ったり、知りたいことが理解できたりした   | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| (3) 目的をもって学習に取り組めた               | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| (4) 授業のすすみ方が自分に合っていた             | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| 学習内容の程度が自分に合っていた                 | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| 学習の仕方が自分に合っていた                   | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| 授業が進む速さが自分に合っていた                 | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| (5) 分からないままに授業が進んでいった            | <input style="width: 80%;" type="text"/> |
| (6) 次の時間が楽しみだ                    | <input style="width: 80%;" type="text"/> |

## 5 授業実践における生徒の意識

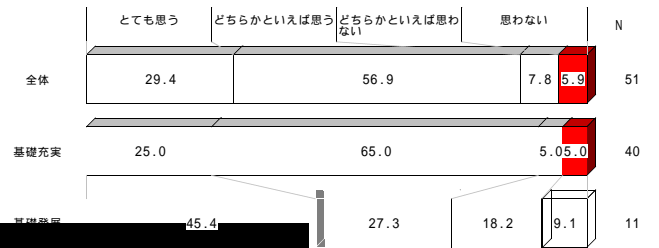
各授業後に行った生徒の自己評価の結果をもとに、授業の内容及び指導方法が生徒の志向性に合ったものになっていたかを分析する。その際、それぞれのコースの全体の傾向及び、希望通りのコ

ースに入った生徒とそうでない生徒の傾向を分析することにより、より一人一人の生徒の学習への志向性に応える指導法のあり方について考察する視点を得ることとした。

知

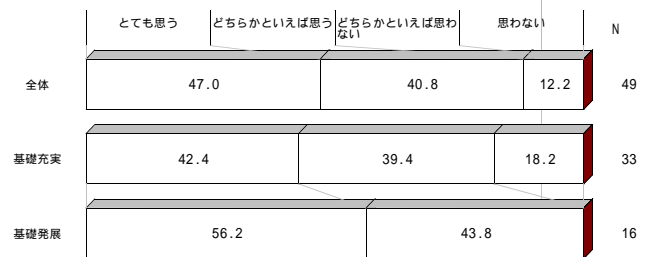
こと

100  
%



基礎発展コース

表 頭 (X軸) No.4 新しいことを知ったり知りたいたいことが理解できたりした <S A> 4桁コリ  
表側 1 (Y軸1) No.1 希望コース <S A> 2桁コリ

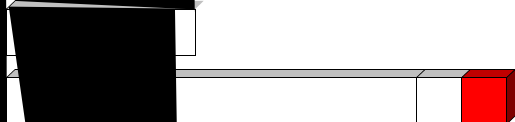


<考察>

このように希望通りの学習集団に所属することができた生徒が、学習内容について何を学んでみたいと思っているのかといった学習者が学習への志向性を十分に把握し、学習指導方法を工夫する必要があると考え

「目標を持って学習に取り組めた」か

基礎充実コース  
表 頭 (X軸) No. 6 取り組めた <S A> 4カテゴリ  
表側 1 (Y軸) No. 7 取り組めた <S A> 4カテゴリ



基礎発展コース  
表 頭 (X軸) No. 6 取り組めた <S A> 4カテゴリ  
表側 1 (Y軸) No. 7 取り組めた <S A> 4カテゴリ

	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	N
全体	28.6	22.4		49
基礎充実	27.3	27.3		33
基礎発展	31.3	12.5		16

<分析>

「そう思う」「どちらかというと思う」という肯定的な回答は、充実コースで 90.2 %、発展コースで 77.6 %、充実コースでは高い割合を示しているが、発展コースでは 80 %を下回っている。

希望コースとの関連をみると、充実希望通り群が 92.5 %、充実発展希望群が 81.8 %、発展充実希望群が 72.7 %、発展希望通り群が 87.5 %で、充実コースを希望したにもかかわらず発展コースで学習した生徒にとって、目標を持って学習に取り組めたという意識をもった生徒の割合が小さい。

<考察>

充実コースでは、学習内容を基本的な内容に焦点化するとともに、使用する言語材料も精選して

から、基礎充実コースの生徒の中でも、ある程度理解ができている生徒にとっては、すでに理解している内容をじっくり学習するといった学習の進み方はもどかしさを感じてしまうのではないかと考える。

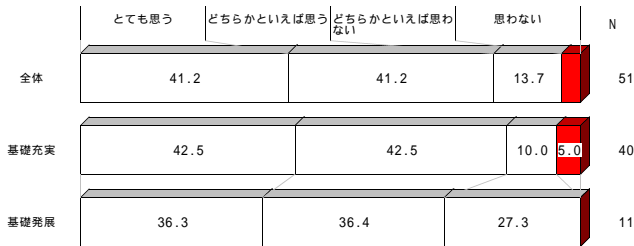
容易に理解できる内容をじっくり学習するといった学習にもどかしさを感じるのではないかと考える。

「学習の仕方が自分に合っていた」か

### 「学習内容の程度が自分に合っていた」か

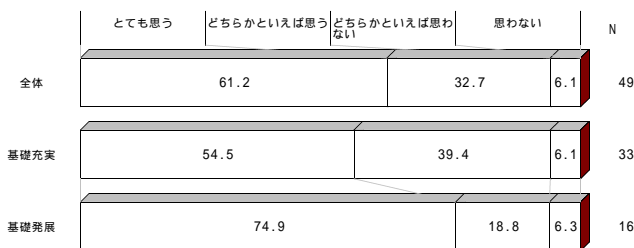
基礎充実コース

表 頭 (X軸) No.8 学習内容の程度が自分に合っていた <S A> 4カテゴリ  
表側 1 (Y軸1) No.1 希望コース <S A> 2カテゴリ



基礎発展コース

表 頭 (X軸) No.8 学習内容の程度が自分に合っていた <S A> 4カテゴリ  
表側 1 (Y軸1) No.1 希望コース <S A> 2カテゴリ



基礎発展コース

表 頭 (X軸) No.9 学習の仕方が自分に合っていた <S A> 4カテゴリ  
表側 1 (Y軸1) No.1 希望コース <S A> 2カテゴリ



#### <分析>

「そう思う」、「どちらかというと思う」という肯定的な回答が、充実コースで 82.4 %、発展コースで 93.9 %と高い割合を示している。

希望コースとの関連をみると、充実希望通り群が 85.0 %、充実発展希望群が 72.7 %、発展充実希望群が 93.9 %、発展希望通り群が 93.7 %で、発展コースを希望したにもかかわらず充実コースで学習した生徒にとって、授業の内容が自分に合っていないという意識をもつ生徒の割合が大きい。

#### <考察>

この傾向は「学習速度」と同じ傾向であり、基礎充実コースでは、学習の進み方と同様に、学習内容の難易度が習熟の程度の不十分な生徒に準ずる傾向が強いことから、基礎充実コースに所属する生徒の中でもある程度理解できている生徒は、

#### <分析>

「そう思う」、「どちらかというと思う」という肯定的な回答が、充実コースで 84.3 %、発展コースで 100 %と高い割合を示している。

希望コースとの関連をみると、充実希望通り群が 87.5 %、充実発展希望群が 72.7 %、発展充実希望群が 100 %、発展希望通り群が 100 %で、発展コースを希望したにもかかわらず充実コースで学習した生徒にとって、学習の仕方が自分に合っていないという意識をもつ生徒の割合が大きい。一方、発展コースの生徒は、希望コースに関係なく、発展コースにおける学習の仕方が自分に合っていると感じている。

#### <考察>

この傾向も「学習の進み方」、「学習内容の程度」と同じ傾向であり、基礎充実コースでは、学習の進み方や内容の程度と同様に、学習の難易度が習熟の程度の不十分な生徒に準ずる傾向が強いこと

から、基礎充実コースに所属する生徒の中でもある程度理解できている生徒にとっては、容易に解決できる学習課題をみんなで解決していくといった学習形態にもどかしさが感じられるのではないかと推察される。

「学習が進む速さが自分に合っていた」か

基礎発展コース

表 頭 (X軸) No.10 授業が進む速さが自分に合っていた <S A> 4桁  
表側 1 (Y軸1) No.1 希望コース <S A> 2桁



「そう思う」、「どちらかというと思う」という肯定的な回答が、充実コースで 82.3 %，発展コースで 95.9 %と高い割合を示している。

希望コースとの関連をみると、充実希望通り群が 85.0 %，充実発展希望群が 72.7 %，発展充実希望群が 97.0 %，発展希望通り群が 93.7 %で、発展コースを希望したにもかかわらず充実コースで学習した生徒にとって、学習が進む速さが自分に合っていないという意識をもつ生徒の割合が大きい。一方、発展コースの生徒は、希望コースに関係なく、発展コースにおける学習速度が自分に合っていると感じていることがうかがえる。

<考察>

この傾向も「学習の進み方」、「学習内容の程度」、「学習の仕方」と同じ傾向であり、基礎充実コースでは、学習の進み方や内容の程度、学習の仕方





習過程の概要に沿って指導内容及び指導方法等を具体化した。

学習過程の設定に当たっては次の4点を設定のコンセプトとした。

どちらのコースも、指導すべき基礎基本を「動詞の過去形及び過去形の文」の作り方及びそれを使った言語活動ができることとし、同様の学習過程を設定する。

**コースによる優越意識や劣等意識といった意識の払拭**

どちらのコースとも学習課題を設定し、

探究的な学習活動が展開できるよう工夫する

**知的好奇心の揺さぶり、学習意欲の高揚**

学習課題の解決に際しては、それぞれのコースで生徒の学習の状況に合わせた活動の目標を設定することにより、生徒が学習への見通しをもって取り組めるようにする。

**学習の進め方等に応える指導**

生徒の学習の状況にあわせて、それぞれの学習活動に費やす時間を決定する。

**学習速度等に応える指導** など

学習過程      学習活動（ 学習課題 ）      : 教師 ,      : 生徒

基礎充実コース		基礎発展コース	
5分	Greeting What do you usually do about 7 o'clock on Wednesday ?	5分	Greeting What do you usually do about 7 o'clock on Wednesday ?
10分	(1) 課題設定 「～する」と「～した」の音の違いを聞き取ろう！  Listen to a song.	5分	(1) 課題設定 「～する」と「～した」の音の違いを聞き取ろう！ Listen to a song.
15分	(2)過去形の表記と発音の仕方について理解する。  yをiに変える場合の規則を発見しよう！ 「delay はどちらのグループにはいるでしょうか？」  [d]と発音する場合と[t]と発音する場合の規則について考えよう！ 「I likeはどちらのグループにはいるでしょうか？」	17分	(2)過去形の表記と発音の仕方について理解する。  yをiに変える場合の規則を発見しよう！ 「delay はどちらのグループにはいるでしょうか？」  [d]と発音する場合と[t]と発音する場合の規則について考えよう！ 「I likeはどちらのグループにはいるでしょうか？」
15分	(3)過去に自分がしたことについて表現してみる。 自己表現しよう！	20分	(3)過去に自分がしたことについて表現してみる。  自己表現しよう！
5分	まとめ Greeting	3分	まとめ, Greeting

課題設定における指導法の工夫

学習過程の「(1)課題設定」におけるそれぞれのコースの指導法の工夫は次の通りである。

基礎充実コース	基礎発展コース
<p>音声による導入により，英語が不得意だと感じている生徒の新出事項の学習に対する抵抗感を和らげる。</p> <p>「つかむ」の段階で生徒が応答するだろうと予想される動詞が使われている歌を準備することにより，生徒が歌とそれを聞くことに親しみがもてるようにする。</p> <p>歌を聞くねらいを明確にすることにより，歌を聞くことに興味をもつとともに，集中して聞こうとする意欲がもてるようにする。</p>	
<p>聞き取らせたい動詞を原形で記入した歌詞カードを示し，あらかじめ発音練習した後で，歌詞カードを見ながら聞かせることにより，どの生徒にも聞き取るポイントが分かるようにする。</p> <p>聞き取りが難しい場合は，動詞の語尾の発音が変化していることを知らせることにより，聞き取るようとする意欲を高める。</p>	<p>聞き取らせたい動詞部を空欄にした歌詞カードを見ながら聞かせることにより，どの生徒にも聞き取るポイントが分かるようにする。</p> <p>聞き取りが難しい場合は，どのような動詞がでてくるのかをグループで交流した後で，もう一度聞いて確かめる活動を仕組むことにより，聞き取るようとする意欲を高める。</p>

「過去形の表記と発音の仕方について理解する。」における指導法の工夫

学習過程の「(2)過去形の表記と発音の仕方について理解する。」におけるそれぞれのコースの指導法の工夫は次の通りである。

基礎充実コース	基礎発展コース
<p>学習のポイントが過去形の基礎となる規則変化する動詞の過去形の表記と発音の仕方であることを知らせることにより，生徒が学習目標をもち，意欲をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>文字と音声でplayed, watched, cookedとstudiedの語尾を強調することにより，生徒がstudyの過去形の表記方法の違いについて疑問をもつことができるようにする。</p> <p>板書を工夫するとともに，教材として課題解決のヒントとなる単語カードを用意し，グループによる課題解決の場を設定することにより，生徒が自分自身で課題解決ができるようにする。</p>	
<p>発音の違いについては，生徒の学習の状況によっては，学習課題とせず，説明するに留めるか，あまり時間をかけないようにする。</p>	

<p>既習の動詞（基礎）から未習の動詞（発展）へとワークシートの内容を工夫することにより、生徒が基礎の確実な定着をめざすとともに、発展にも挑戦してみようという意欲を持つことができるようにする。</p>	<p>既習の動詞（基礎）に加え未習の動詞（発展）も扱うことにより、どんな動詞についても過去形を作ることができるという自信をもてるようにする。</p>
--	--

「過去に自分がしたことについて表現してみる。」における指導法の工夫  
 学習過程の「(3)過去に自分がしたことについて表現してみる。」におけるそれぞれのコースの指導法の工夫は次の通りである。

基礎充実コース	基礎発展コース
<p>「つかむ」の段階で表現した現在形を活用するよう指示することにより、生徒に具体的な場面を想起させ、過去のことについて表現しようという意欲を高める。</p>	
<p>自分が「昨日何をしたのか」を知ってもらおう相手の人数を具体的に示し、目標とすることにより、言語活動への意欲を高める。</p>	<p>「昨日何をしたのか」に加え、「昨日以外の日に何をしたのか」についても尋ねたり答えたりすることができるようにすることにより、言語活動への意欲を高める。</p>
<p>机間指導により、生徒のつまずきの状況に合わせて適切な指導（指示や説明）を行い、生徒が学習への意欲を維持できるようにする。あわせて、生徒が自己表現を英語で言えるよう個別に発音指導をする。</p> <p>教室後方のスペースを使い、友だちと自由に会話ができるようにすることにより、英語で自己表現しようという意欲を高める。</p>	

基礎充実コース及び基礎発展コースに、上に示したそれぞれのコースの指導法の工夫を具体的に取り入れたものが次に示すそれぞれの学習過程である。

学習過程【基礎充実コース】

過程	学 習 活 動 ( 学 習 課 題 ) : 教 師 , : 生 徒	支 援	判 定 基 準 と 評 価 方 法 観 点 ]
つ か む	<p>Greeting Good afternoon, everyone. How are you? How's the weather today? What day is today?                      It's Thursday. What the date today?</p> <p>What do you usually do about 7 o'clock on Wednesday?</p> <p>&lt; 予想される反応 &gt; ・ I usually eat dinner.    watch TV.    play with my friends.    study (at juku school).    play computer games.    play baseball (soccer).    cook dinner.</p>	<p>教師が元気よくあいさつをし雰囲気作りをする。</p> <p>時間を限定することにより、生徒が自分の答えを具体的にもてるようにする。</p> <p>黒板に一週間の日程表を貼ることにより、質問の意味が分からない生徒が質問の意味を推測することができるようにする。</p> <p>英語で表現することが難しい生徒に対しては、日本語で答えてもよいこととし、コミュニケーションをしようという意欲がもてるようにする。</p>	<p>[ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ]</p> <p>&lt; 観察 &gt; ・ 訪ねられたことに対して積極的に英語で答えようとしているか。</p>
考 え る	<p>(1) 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「～する」と「～した」の音の違いを聞き取るう！ 「この歌のこの部分は「～した」、「～した」・・・という意味の歌です。「～した」という部分は、どのように聞こえるか、注意して聞き取りましょう。」</p> </div> <p>Listen to a song.</p> <p>歌の内容について説明する。 発音練習により歌にでてくる単語の原型を聞き取ることができるようにする。</p> <p>どのように聞き取ったかをグループで交流し、聞き取りの不確かな部分を明確にする。</p> <p>グループ交流の結果を発表する。 &lt; 予想される反応 &gt; ・最後に「ㄉ」がついているように聞こえる ・最後に「ㄊ」がついているように聞こえる ・最後に詰まったように聞こえる</p>	<p>音声による導入により、英語が不得意だと感じている生徒の新出事項の学習に対する抵抗感を和らげる。</p> <p>「つかむ」の段階で生徒が応答するだろうと予想される動詞が使われている歌を準備することにより、生徒が歌とそれを聞くことに親しみがもてるようにする。</p> <p>歌を聞くねらいを明確にすることにより、歌を聞くことに興味をもつとともに、集中して聞こうとする意欲がもてるようにする。</p> <p>聞き取らせたい動詞を原形で記入した歌詞カードを示し、あらかじめ発音練習した後で、歌詞カードを見ながら聞かせることにより、どの生徒にも聞き取るポイントが分かるようにする。</p> <p>聞き取りが難しい場合は、動詞の語尾の発音が変化していることを知らせることにより、聞き取ろうとする意欲を高める。</p>	
深 め る	<p>(2) 過去形の表記と発音の仕方について理解する。 &lt; 板書 &gt; 「～する」                      「～した」 play                                  played study                                studied</p> <p>watch                              watched cook                                 cooked</p> <p>&lt; 予想される反応 &gt; ・なぜ study は y を i に変えなければならないのか? ・[d]と[t]の発音の違いがなぜ生じるのか?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>y を i に変える場合の規則を発見しよう！ 「delay はどちらのグループにはいるでしょうか？」</p> </div>	<p>学習のポイントが過去形の基礎となる規則変化する動詞の過去形の表記と発音の仕方であることを知らせることにより、生徒が学習目標をもち、意欲をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>板書で played, watched, cooked と studied の語尾を強調することにより、生徒が study の過去形の表記方法の違いについて疑問をもつことができるようにする。</p> <p>生徒がもった疑問を、生徒自身が課題解決する場を設定することにより、学習内容への関心を高めるとともに、学習したことの理解が深まるようにする。</p>	

【ed グループ】

stay は stayed  
alloy は alloyed  
enjoy は enjoyed  
destroy は destroyed

【ied グループ】

ally は allied  
cry は cried  
try は tried  
deny は denied  
carry は carried  
qualify は qualified

深

板書をもとに、違いについて考え発表する。

ed をそのまま付ける場合と y を i に変える場合の規則について説明する。

め

[d]と発音する場合と[t]と発音する場合の規則について考えよう！  
「like はどちらのグループにはいるでしょうか？」

【[d]グループ】 【[t]グループ】

stay watch  
play cook  
love

板書を参考に、実際に発音することを通して、違いについて考え、発表する。

[d]と発音する場合と[t]と発音する場合の規則について説明する。

自分の力で現在形を過去形にしてみよう！

る

(3)過去に自分がしたことについて表現してみる。

Answer the question in English.  
What did you do about 7 o'clock yesterday ?  
「昨日 7 時頃何をしたかな？」

自己表現

自分が昨日 7 時頃何をしたかを友だちに知ってもらおう。

板書を工夫するとともに、教材として課題解決のヒントとなる単語カードを用意し、グループによる課題解決の場を設定することにより、生徒が自分自身で課題解決ができるようにする。

生徒の考えを板書して整理することにより、生徒が自分の考えを整理したり、新たな考えをもったりすることができるようにする。

板書した生徒の考えを使いながら説明することにより、生徒が自分で規則を発見したという充実感がもてるようにする。

喉に手を当てて発音するよう指示することにより、生徒が感覚的に語尾の「有声音」と「無声音」の違いに気付くことができるようにする。

留意事項：生徒の学習の状況によっては、学習課題とせず、説明するに留める、もしくはあまり時間をかけないようにする。

[言語・文化についての知識・理解]

<ワークシート>

・動詞の現在形を過去形に書き換えることができるか。

既習の動詞(基礎)から未習の動詞(発展)へとワークシートの内容を工夫することにより、生徒が基礎の確実な定着をめざすとともに、発展にも挑戦してみようという意欲を持つことができるようにする。

[表現の能力]

<ワークシート>

・過去形を使って表現することができるか。

<観察>

・自分が昨日 7 時頃したことを相手に伝えることができるか。

「つかむ」の段階で表現した現在形を活用するよう指示することにより、生徒に具体的な場面を想起させ、過去のことについて表現しようという意欲を高める。

自分が「昨日何をしたのか」を知ってもらう相手の人数を具体的に示し、目標とすることにより、言語活動への意欲を高める。

机間指塗 U「W 描 f 察 2 i ケ F 8 シあ m 0」 6 ト貯俾 表現 題

学習過程【基礎発展コース】

過程	学 習 活 動 ( 学 習 課 題 ) : 教 師 , : 生 徒	支 援	判定基準と評価方法 観点]
つ か む	<p>Greeting Good afternoon, everyone. How are you? How's the weather today? What day is today? What the date today?</p> <p>What do you usually do about 7 o'clock on Wednesday ?</p> <p>&lt; 予想される反応 &gt; ・ I usually eat dinner. watch TV. play with my friends. study (at juku school). play computer games. play baseball (soccer). cook dinner.</p>	<p>教師が元気よくあいさつをし雰囲気作りをする。</p> <p>時間を限定することにより、生徒が自分の答えを具体的にもてるようにする。</p> <p>黒板に一週間の日程表を貼ることにより、質問の意味が分からない生徒が質問の意味を推測することができるようにする。</p> <p>英語で表現することが難しい生徒に対しては、日本語で答えてもよいこととし、コミュニケーションをしようという意欲がもてるようにする。</p>	<p>[ コミュニケーション への関心・意欲・態度 ]</p> <p>&lt; 観察 &gt; ・ 訪ねられたことに対して積極的に英語で答えようとしているか。</p>
考 え る	<p>(1) 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「～する」と「～した」の音の違いを聞き取ろう！ 「この歌のこの部分は「～した」、「～した」・・・という意味の歌です。「～した」という部分は、どのように聞こえるか、注意して聞き取りましょう。」</p> </div> <p>Listen to a song.</p> <p>歌の内容について説明する。 内容から英語の音声を推察して聞き取るようにする。</p> <p>聞き取った単語を現在形で発表する。</p> <p>どのように聞き取ったかをグループで交流し、聞き取りの不確かな部分を明確にする。</p> <p>グループ交流の結果を発表する。 &lt; 予想される反応 &gt; ・ 最後に「トㄱ」がついているように聞こえる ・ 最後に「トク」がついているように聞こえる ・ 最後に「トク」がついているように聞こえる</p>	<p>音声による導入により、英語が不得意だと感じている生徒の新出事項の学習に対する抵抗感を和らげる。</p> <p>「つかむ」の段階で生徒が応答するだろうと予想される動詞が使われている歌を準備することにより、生徒が歌とそれを聞くことに親しみもてるようにする。</p> <p>歌を聞くねらいを明確にすることにより、歌を聞くことに興味をもつとともに、集中して聞こうとする意欲がもてるようにする。</p> <p>聞き取らせたい動詞部を空欄にした歌詞カードを見ながら聞かせることにより、どの生徒にも聞き取るポイントが分かるようにする。</p> <p>聞き取りが難しい場合は、どのような動詞がでてくるのかをグループで交流した後で、もう一度聞いて確かめる活動を仕組むことにより、聞き取るようとする意欲を高める。</p>	
深 め る	<p>(2) 過去形の表記と発音の仕方について理解する。 &lt; 板書 &gt; 「～する」      「～した」 play              played study             studied  watch             watched cook                cooked</p> <p>&lt; 予想される反応 &gt; ・ なぜ study は y を i に変えなければならないのか? ・ [d] と [t] の発音の違いがなぜ生じるのか?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>y を i に変える場合の規則を発見しよう！ 「delay はどちらのグループにはいるのでしょうか？」</p> </div>	<p>学習のポイントが過去形の基礎となる規則変化する動詞の過去形の表記と発音の仕方であることを知らせることにより、生徒が学習目標をもち、意欲をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>板書で played, watched, cooked と studied の語尾を強調することにより、生徒が study の過去形の表記方法の違いについて疑問をもつことができるようにする。</p> <p>生徒がもった疑問を、生徒自身が課題解決する場を設定することにより、学習内容への関心を高めるとともに、学習したことの理解が深まるようにする。</p>	

【ed グループ】

stay は stayed  
alloy は alloyed  
enjoy は enjoyed  
destroy は destroyed

【ied グループ】

ally は allied  
cry は cried  
try は tried  
deny は denied  
qualify は qualified

深

板書をもとに、違いについて考え発表する。

ed をそのまま付ける場合と y を i に変える場合の規則について説明する。

板書を工夫するとともに、教材として課題解決のヒントとなる単語カードを用意し、グループによる課題解決の場を設定することにより、生徒が自分自身で課題解決ができるようにする。

生徒の考えを板書して整理することにより、生徒が自分の考えを整理したり、新たな考えをもったりすることができるようにする。

板書した生徒の考えを使いながら説明することにより、生徒が自分で規則を発見したという充実感がもてるようにする。

## 研究のまとめ

本研究では、効果的な少人数指導の在り方を探るために、次の2点に焦点を当てて研究を進めた。

### 学習集団の編成の仕方

学習集団を編成する子どもの状況に応じた学習指導の方法

上記の2点について探るための視点を、子どもの「学習の状況（理解の状況）」及び「学習への志向性」とし、子どもの意識調査に基づき、研究を進めた。

このことを通して、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

## 1 成果

### (1) 学習集団の編成について

習熟度別少人数学習集団の編成において、学習内容の程度や学習形態、学習方法等は習熟の程度によって決定するのではなく、学習集団を編成する子どもの学習への志向性の傾向によって決定されることが望ましいことが明らかになった。

習熟度別学習集団を編成する際、あらかじめ、それぞれの学習集団の特徴（学習内容や学習方法など）を具体化し子どもに示すことにより、子どもの主体的なコース選択を促すとともに、習熟の程度による優越意識や劣等意識を払拭することができることが明らかになった。

### (2) 学習指導計画の立案について

学習過程は、子どもの習熟の程度のみによって決定するのではなく、子どもの学習への志向性も十分にふまえて計画することにより、それぞれのコースの子どもが満足できるものになることが明らかになった。

習熟の程度に関係なく、学習のねらいは、基礎的内容の確実な定着としつつ、子どもの知的好奇心を揺さぶるような学習課題の設定

及び探究的な学習活動を取り入れるとともに、それぞれの子どもの学習への志向性に合わせた学習形態を組み込んだ学習過程を計画することが重要であることが明らかになった。

## 2 課題

学習への志向性は、学習集団を編成する子ども一人一人個人差があることから、学習集団を編成する子どもの、学習への志向性の全体的な傾向を把握するだけでは、少人数指導がめざす「個に応じた指導」を本当の意味で充実させることは困難である。

学習への志向性の全体的な傾向を把握し、それに基づく学習指導計画を立てると同時に、その計画では応えることができない子どもの学習への志向性に応える個別の支援を、どれだけ具体的に学習指導計画に盛り込むことができるかが今後の大きな課題である。

本研究では、子どもの意識調査及びその結果の分析・考察に基づく学習集団編成及び学習指導計画の立案・実践、さらに、子どもの授業後の自己評価とその結果の分析・考察を通して、少人数指導を効果的に行うための学習指導計画のモデルを示した。今後は、このモデルを実践に移行し、その効果性について検証していきたい。

### 大学指導教官

安田女子大学文学部教授

大園 隆久

### 研究協力校

広島市立口田小学校

校長

前花 嘉和

研究協力推進代表者 教諭

田鍋 慎一

広島市立温品中学校

校長

島筒 準壮

研究協力推進代表者 教諭

加茂 優子